

# Heart News

生活 第296号 2024.4.1 発行

友だち募集中!



青藍会Facebook



3月16日にKDDI 維新ホールで第15回青藍会グループ成果発表会が開催されました。成果発表会では、永年勤続表彰や各事業所が取り組んだテーマを発表した成果発表の表彰式、2024年度の経営方針の発表などがありました。

## INDEX

- P2 第15回青藍会グループ成果発表会 青藍会グループ代表挨拶
- P3 30年永年勤続表彰代表者挨拶 / 20年永年勤続表彰代表者挨拶
- P4~5 永年勤続表彰者
- P6~7 ナースコール一体型見守りセンサー活用によるサービス提供の効率化
- P8~9 訪問診療の診療科総合化の取り組み
- P10~11 医療的依存度の高いご利用者様の望みを多職種連携で叶えた事例
- P12~13 地域子育て支援と入園希望者数拡大
- P14~15 感染症の対策について～BCPの活用とこれから～
- P16 はあと日本語学校卒業式



# 第15回青藍会グループ成果発表会

3月16日(土)にKDDI維新ホールで第15回青藍会グループ成果発表会を開催しました。「地域とともに、あなたと生きる。(利用者と職員の豊かさの実現)～コロナの終焉、DXの次なるステージへ～」というテーマのもと、2023年度に各事業所が取り組んだ内容を発表し、事前に全職員が視聴・投票を行いました。

本誌では、成果発表会の中から代表挨拶をはじめ、永年勤続表彰、セレクション部門についてご紹介します。



代表挨拶(写真左)と、2023年度目標達成したチームの表彰(写真右)の様子

## 青藍会グループ代表挨拶 第15回青藍会グループ成果発表会



青藍会グループ 代表 阿武 義人

本日ここに、第15回青藍会グループ成果発表会を開催するにあたり、主催者を代表してご挨拶を申し上げます。

昨年2023年は、国際紛争や異常気象、それに伴うエネルギーや食糧品の急激な高騰は様々な経費を押し上げ、我々の生活や経営環境を大きく圧迫しています。ヘルスケア分野では、5月に、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置づけが2類相当から5類に引き下げられ、「withコロナ」のステージに移行しました。今年2024年は、年初の自然災害に始まり、複数の感染症の流行も継続しています。このような時だからこそ、我々は地に足を付け、地域ニーズに応じた確実な仕事をしていかなければなりません。

また、日本全体に少子高齢化問題かつ生産年齢人口減少という大きな難題が立ちはだかっている中、国家財政面から、膨張する医療・介護・福祉関係費用等の社会保障費抑制を図っています。今年は診療報酬、介護報酬、障がい報酬の同時改定が4月、6月に分割して実施されますが、人件費や諸物価高騰に比して厳しい内容となっています。

このように厳しい状況下ではありますが、青藍会グループでは、利用者と職員の豊かさのためにデジタルトランスフォーメーション(DX)を一層推進し、人時生産性の向上、業務の効率化、サービスの質の向上、職員の教育環境の整備を進めていきます。

第15回となる今回の青藍会グループ成果発表会ですが、永年勤続表彰では、永年勤続30年が初めて2名おられます。20年が13名、10年が47名と過去最多数の永年勤続者を表彰します。多くの職員が青藍会グループに定着し、誇りとやりがいを持って業務に取り組まれている証左だと感謝しています。

成果発表では、各部署の日頃の業務の中で、より良いサービスを提供するために切磋琢磨した成果をまとめ、発表しています。今回は感染症に対するBCPも演題に入っていました。そして、職員間の共通理解を深めて連携体制を構築し、更には地域社会への貢献に繋げていきます。

最後になりますが、成果発表会を開催するに当たり、発表者及び運営等に尽力して頂いた実行委員の方々のご苦勞に感謝し、挨拶と致します。

2024年3月16日

## 30年永年勤続表彰代表者挨拶



青藍会在宅医療支援センター新山口訪問看護ステーション  
看護師

今回、永年勤続職員としてこのような場を設けていただき誠にありがとうございます。温かなお言葉を頂戴いたしまして、心から感謝しております。

私が青藍会に入職し30年が経ちました。私の人生の1/2を青藍会でお世話になっています。入職当時は独身でしたが、その年の6月に結婚。翌年に長男を出産、産後あけて長男が保育園ハートアイランド山口（現在はあと保育園吉敷）に入園。急な熱発や感冒・感染症の時など、常に病児保育で対応していただき、仕事を休むことなく勤務に専念することができました。また、夕方の会議や残務がある時には、両親に迎えと育児を頼んだり、施設の夕食を注文してヘルパーさんに育児をお願いしたりしたものです。7年後に次男が誕生し、その時もハートアイランド山口に子どもを預けられたので不安を感じることなく仕事の継続ができました。本当にあっという間の30年間で、今では子どものことで大変世話になった親の介護を行っています。青藍会に入職してから、あんの循環器内科の病棟、外来、デイケア、病児保育、ショートステイ、特養、訪問診療の介助と様々な場面での看護の仕事に携わり、現在はホスピス住宅での訪問看護師として勤務しています。高齢者の介護・看護そして人生最期のステージである看取り。それぞれのご利用者様・ご家族様に対して、その場面における私たち看護職の対応がいかに重要で重みのあるものかを痛感しています。

がん末期のご利用者様は、大部分の方が告知を受けて入居されています。ご利用者様本人も、またご家族様にもどのように最期を迎えたいかを確認してマネジメントを行っています。心の準備をされつつも病状の変化があると、緊張・あせり・不安を強く感じます。状況を見て、ご本人やご家族の望まれる方との面会を勧めたり、お守り目的で最期に着る洋服を持って来てもらったりしています。ご利用者様のケアと一緒にいたり、手・足のマッサージ、口腔内の保湿を行ったり、意識がある時に、ご家族様の思いや感謝などを伝えることでお別れが近いことを認識されながら、大切な最期の時間を共に過ごせるようにアプローチしています。

これからも皆様のお力添えをいただき、これまで以上に日々を大切に、仕事に尽力していきます。本日はありがとうございました。

## 20年永年勤続表彰代表者挨拶



地域連携推進室 医療部 部長

本日は、永年勤続表彰の栄に賜り誠にありがとうございます。勤続20年を迎えた13名を代表して、僭越ではございますが、ご挨拶をさせていただきます。

20年前、私はキッチンあとの事務として入職しました。前職は広告代理店での営業職だったため、この業界のこともよくわからないままの入職でした。入職後2週間で前任の管理者が退職となり、管理栄養士の磯部さんと相談しながら、手探りで365日、1日3度の食事の提供、在宅利用者への配食サービスの提供に奔走していました。また、ハートホーム平川・南山口ができた年の入職で、サテライトのシフト調整に苦慮していたのを今でも思い出します。

入職後、大病を患い、大学病院へ長期入院となりました。その際、副代表をはじめ、多数の方にお見舞いに来ていただき、様々な励ましを頂いたおかげで、何とか職場復帰できました。

その後、本部にて人事部をはじめ、本部機能の業務の経験をさせていただいた後に、あんの循環器内科へ異動。ここから医療の部分に携わることができました。異動した年から、訪問診療の単価が大きく削られ、前年対比での収益の確保に苦慮しましたが、なんとか前年対比でプラスに持って行けたことも記憶に残っています。

2017年9月1日の東京都世田谷区での事業開始時には、開設予定日の2週間前に異動の話があり、バタバタな調整の中、開設日に成城特養の会議室にて、朝礼を行ったことも懐かしく思います。世田谷では、青藍会ブランドが全く無い中での発進でした。ベースとなる医療機関がないことの大変さ、新規獲得の大変さを学ぶとともに、ひよんなことから保育園の園長を行うこととなり、短い間でしたが、園児・保護者・地域の保育園・学校関係者との関わり、保護者や地域の満足度の向上について、非常に良い経験をさせていただきました。

2年前に山口に戻ってまいりましたが、現在は、在宅医療の拡大に従事しています。この2年で、医師体制やコメディカルの整備を進めながら、訪問シェアの拡大を進めてきています。今後、山口市の地域No1法人として生き残っていくためにも、医療提供のシェア拡大は肝となる部分だと考えています。

当グループで学んできた20年のキャリアを活かし、また次年度からの新しいミッションに心躍らせて、業務に取り組んでまいりたいと思います。

甚だ簡単ではございますが、20年永年勤続の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

# 永年勤続表彰者

## 30年永年勤続表彰者 (2名)



人事部 本部長



青藍会在宅医療支援センター新山口  
訪問看護ステーション 看護師



## 20年永年勤続表彰者 (13名)



在宅医療部・看護・リハ部 部長



教育部 教育課 課長



はあと保育園新山口  
事業所長



青藍会在宅医療支援センター山口  
在宅マネジメントセンター  
介護支援専門員



青藍会在宅医療支援センター山口  
在宅マネジメントセンター  
介護支援専門員



青藍会在宅医療支援センター山口  
在宅マネジメントセンター  
介護支援専門員



青藍会在宅医療支援センター山口  
定期巡回・随時対応型訪問看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
訪問看護ステーション  
看護師



はあとサポート山口  
生活支援員



ハートハウス大歳  
小規模多機能型居宅介護  
介護福祉士



ハートホーム南山口  
デイサービスセンター  
ヘルパー2級



経理部 請求センター



## 10年永年勤続表彰者 (43名)



ハートホーム山口  
デイケアセンター  
事業所長・理学療法士



あんの循環器内科  
看護師長



あんの循環器内科  
医師



あんの循環器内科  
事務



あんの循環器内科  
言語聴覚士



ハートホーム山口グループホーム  
ヘルパー2級



ハートホーム山口グループホーム  
介護福祉士



ハートホーム山口グループホーム  
介護福祉士



ハートホーム山口グループホーム  
介護福祉士



ハートハウス吉敷脳活性リハビリ  
介護福祉士



キッチン・はあと  
調理員



はあとサポート山口  
生活支援員



はあと保育園吉敷  
保育士



はあと保育園中央  
保育士



はあと保育園中央  
保育士



ハートホーム中央ショートステイ  
介護福祉士



ハートホーム平川グループホーム  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
看護小規模多機能型居宅介護  
准看護師



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護補助



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター新山口  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
介護福祉士



青藍会在宅医療支援センター南山口  
看護小規模多機能型居宅介護  
介護福祉士



はあとm+M新山口  
看護師



はあとm+M3W新山口  
介護福祉士



はあと f + j 小郡南  
事務・指導員



はあと保育園新山口  
保育士



ハートホーム小郡脳活性リハビリ  
認知症介護基礎研修



ハートホーム小郡あんしんホーム  
事務



ハートホーム小郡あんしんホーム  
宮緒



おごおり薬局  
事務



ハートクリニック南山口  
理学療法士



ハートクリニック南山口  
管理栄養士



ハートホーム南山口脳活性リハビリ  
介護福祉士



ハートホーム南山口脳活性リハビリ  
実務者研修



ハートホーム南山口ショートステイ  
介護福祉士



ハートホーム南山口グループホーム  
実務者研修

# ナースコール一体型見守りセンサー活用によるサービス提供の効率化



地域連携推進室 介護部 部長

## I. はじめに

現在、グループ内の各高齢者住宅において、ご利用者様の状況に合わせて定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス（以下 定期巡回）を導入し、入居者に対し24時間365日排泄介助や環境整備、安否確認などの支援を行っています。

## II. 取り組んだ課題

定期巡回の支援の質の担保、また効率の良い安否確認・訪問の実施を検討すると同時に、多数の利用者支援による職員のストレス・負担をいかに軽減するか。

## III. 具体的な取り組み

ウェルネスセンター中央においてナースコール一体型見守りセンサーを導入



## IV. 活動の成果と評価

### ①見守り機能とナースコールが一体型になったシステムの導入

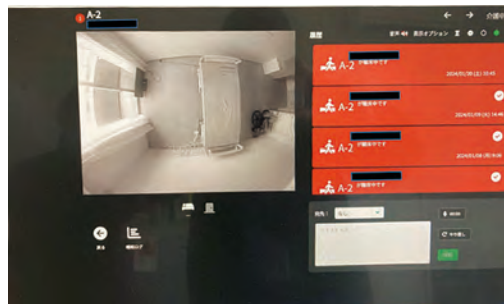
#### \*見守り機能

- ・ベッド上のご利用者様の状態（心拍数、呼吸、眠りの状態など）をリアルタイムにモニタリング
- ・利用者の離床に対する通知転送

#### \*ナースコール機能

- ・利用者からの緊急要請コール
- ・利用者から要件の伝達

パソコンや携帯に現在のご利用者様の様子がタイムリーに表示されます。通報があった際には、緊急呼び出しが通話かが表示されます。それと同時にどこで呼び出しているかの表示もあります。これにより、ご利用者様の居室のどこで呼び出しているかがわかり、緊急度合いの把握もしやすくなります。画面右上に「未対応」「対応中」「対応済み」と表示されるので、この表示を確認することで職員の対応が重複することが予防でき、業務の効率化にもつながります。また、トリアージ機能（緑<黄<赤の順で緊急度が高くなる）があり、対応ご利用者様の優先順位の見える化が可能となります。



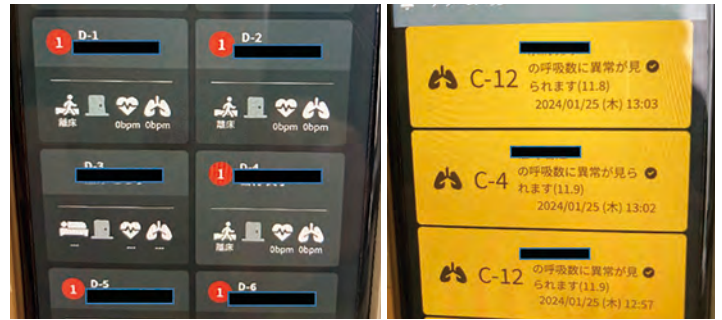
### 画面上に表示される内容

- 新しいアラームで対応が必要なもの。**  
※未対応のアラームがある場合、新しいアラームは生成されない。
- アラームに対してスタッフの誰かが「私に対応する」と手を挙げたもの。**  
※対応者になれるのは1人のため、対応業務の重複予防になる。  
※対応中は新しいアラームは生成されない
- 対応完了したもの。**  
※次何かあった際には新しいアラームが生成されるようになる。

### ②導入当初の状況

2022年12月31日時点  
全居室に設置（80室）

入居者数 32名  
 定期巡回導入者数 20名  
 システム稼働数 20室  
 利用者1人当たり平均訪問回数 5.9回/日  
 職員1人当たり平均訪問回数 16.3回/日



### ③問題点の抽出

#### 1. システムの精度改善提案

1つめはご利用者様がコールを鳴らしても対応携帯が鳴らず対応できないという問題点でした。これはご利用者様、ご家族様からのクレームにつながる可能性が高いものでした。

2つめはカメラの映像が不明瞭で霞がかかったような感じになっていました。そのため離床中のアラームが鳴ってもPCや携帯ではご利用者様の所在が分かりにくくなっていました。

3つめはセンサーの精度が悪いという問題点でした。離床していないのに離床反応が出ていたりし、無駄な訪室が増えてしまいました。

以上の3点についての問題点をとりまとめ、デジタル課に報告を行いました。対応として①コール時の表示を居室番号だけでなくご利用者様のお名前も表示するようにしました。②居室カメラをカラーで見えるように表示し、より鮮明に所在確認ができるようにしました。③センサー精度をあげ、適切な通知が届くよう調整しました。これにより、ナースコールを押しても対応携帯が鳴らない、または誤報をなくし、適切な訪問が出来るように改善しました。

#### 2. システムの適切な活用による巡回回数の軽減と職員の負担軽減

システムから発信されるご利用者様からのコールパターンを把握し、分析を実施しました。排泄や移乗等で頻回にコールがある項目については支援内容を見直し、随時訪問から定期訪問へ移行しました。このことをご利用者様も排泄や移乗の際にコールを鳴らすことなく職員が来るため、コール回数の減少につながりました。また夜間も見直し前は安否確認で各居室を訪室していましたが、2時間ごとのモニターチェックに変更し、訪室巡回は実施しないようにしました。これにより業務の効率化だけでなく、ご利用者様の安眠にもつながる相乗効果も得られました。

### ④システム導入から11か月後の状態

2023年11月30日  
 入居者数 80名  
 定期巡回導入者数 53名  
 システム稼働数 53室  
 利用者1人当たり平均訪問回数 3.3回/日  
 職員1人当たり平均訪問回数 9.3回/日

システム誤作動が減ったことやコールのみの対応で済むことは訪室せずモニターチェックにしたこと、夜間の安否確認もモニターチェックに変更したことで訪問回数が減ったことが考えられます。職員1人当たりの平均訪問回数は9.3回となり、誤報などにより訪問することがなくなったので職員のストレスや負担減だけでなく、必要なケアに時間をかけられるようになりました。

## V. おわりに

今後の課題として、1.システムの離床アラートの個別化、2.システムの活用方法の周知、3.システムの機能課題の抽出、デジタル課や設置支店長、開発者との連携による機能向上の3つがあります。それぞれの課題に対し一つ一つ確実に解決に向けて取り組むことで更なる利用者満足、サービスの質の向上を目指していきます。

最後に、今回見守り機能のデジタル化を目指し、ナースコール一体型見守りセンサーのシステムを導入し、メリットや課題も明確になりました。今後はご利用者様の安全確保や異常の早期発見などをいかに職員がストレスなく行えるかが重要になってくると考えます。そのためにも定期巡回職員だけではなくデジタル課などの他部署・多職種連携を行い、よりよいケアを提供していきます。

# 訪問診療の診療科総合化の取り組み



地域連携推進室 医療部 部長

## I. はじめに

高齢化が進むに連れ、受診が困難な患者様が増加しています。それに伴い、ご家族や施設職員の受診介助の負担が増大してきています。複数の病院やクリニックにかかられていれば、その都度、時間・体力共に負担が増えます。患者様に認知症状があれば、受診時に長時間待つことも困難なケースが多くみられます。

## II. 取り組んだ課題

これまで、青藍会の訪問診療はグループ内の施設、住宅への訪問がメインでしたが、皮膚科や眼科、形成外科、整形外科など、内科以外の専門医が往診することで外部の病院やクリニックへの受診を減らし、家族や介護現場のスタッフの負担軽減を考えました。併せて、法人外の施設への往診を行うことで、新たな内科の訪問先の開拓材料と考え、2022年4月より、2023年度末までの登録者目標数を『1222名』に設定し、取り組みを開始しました。

## III. 具体的な取り組み

まずは医師の確保からスタートしました。

1. 山口大学の各医局へ、亀田院長と医師派遣の依頼からリクルート活動をスタート
2. 個人開業医のクリニックにも休診日等に勤務してもらえないか、個別に訪問し、交渉
3. 紹介業者へ求人打診



2022年5月、山口大学から、皮膚科・形成外科医師派遣により、その他の診療科の往診を開始

2022年7月 福谷医師入職

2023年4月 立石医師・藤谷医師が加わり、さらに診療枠増加

2023年5月 中村医師による眼科の往診開始、倉員医師による整形外科の往診開始

2023年7月 井原医師入職により整形外科増枠

2023年10月 村田医師が常勤転換

2023年12月 原口医師入職により皮膚科の診療枠拡大

2024年2月 猿渡医師入職により耳鼻科往診開始

次に患者様の確保についてです。まずは、内部の医師へ紹介を依頼しました。その他の専門医が往診することで、専門的な判断と治療ができ、患者様からも喜ばれています。新たな診療科の往診が始まる前に、広報課へチラシ作成を依頼しました。各高齢者住宅へポスターを掲示し、入居者様へ直接啓蒙を行っています。

また、2022年6月から毎月、山口市内の居宅・特養・グループホーム・高齢者住宅など約90か所へチラシを送付しています。毎月チラシの内容を変えながら、その時期に流行しそうな疾患に対応できることをアピールしています。

## IV. 活動の成果と評価

実際に往診が始まり、施設職員が外部の受診介助に付き添う回数が減少してきています。現場が手薄になることも減り、サービスの質の保持に繋がっていると、各支店長より声を頂いています。また、退院支援室からは、高齢者住宅の選定時、ご家族の受診介助の負担が無いというのがポイントとなり、入居の決め



手の一つになっていると聞いています。

皮膚科の例では、「疥癬など早期発見ができ、施設内の拡大を防げた」。また、眼科の例では、「在宅時は通院していた眼科受診も、施設に入所したことで中断していたが、往診が始まったことで、眼科の受診が再開でき、受診を身近に感じられる」というお話も伺っています。

次に訪問枠の増加についてです。表のように、2022年4月は1週間で、午前10便、午後は3便、訪問に出ています。この取り組みを始めて、2024年1月には、内科、その他の診療科含め、午前29便、午後20便の訪問枠へ増加しています。

	月	火	水	木	金	土
AM	阿武	萬納寺	萬納寺	阿武	阿武	山本
		松村	松村	松村	松村	
便数	1	2	2	2	2	1

	月	火	水	木	金	土
PM		萬納寺	萬納寺			
			村田			
便数	0	1	2	0	0	

	月	火	水	木	金
AM	亀田	亀田	亀田	亀田	亀田
	立石	福谷	立石	福谷	福谷
	萬納寺	松村	萬納寺	立石	立石
			福谷		
	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	
	形成				
		整形	整形		整形
	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科
便数	6	6	7	5	5

	月	火	水	木	金
PM	亀田	亀田	亀田	福谷	福谷
	福谷	福谷	萬納寺	村田	村田
	萬納寺	藤谷	福谷		
		松村	藤谷		
			整形		整形
	眼科	眼科	眼科		
便数	4	5	6	2	3

訪問延べ件数については、2022年4月は619件、2023年4月で1204件、2024年1月は1638件へと拡大してきています。内科医の増員や、新たな診療科の訪問が開始する度に、訪問件数も増加してきています。

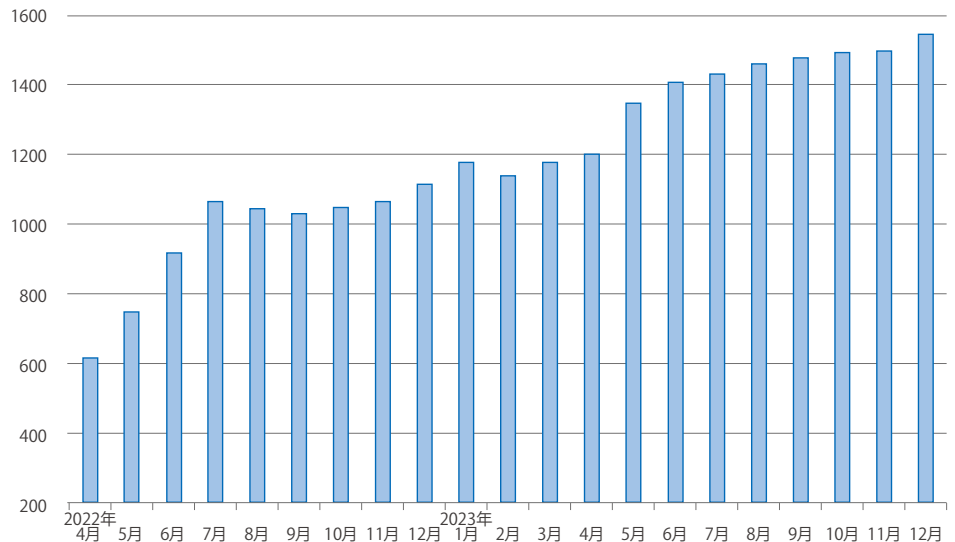
登録者の推移は、2022年4月は346名、2023年4月で668名、2024年1月は922名へと拡大してきています。

外部の施設への展開については、内科の訪問は、2022年4月時点では、3

施設でしたが、現在9施設へ訪問診療を提供しています。また、その他の診療科で、外部施設、33か所へ往診に伺っています。現在、この往診先を定期的訪問診療に切り替えて、訪問診療のシェアの確保に結び付けていくよう、アプローチを行っています。

訪問診療件数が増加するに伴い、ついで動いてくれる訪問看護ステーションへの指示書発行件数も右肩上がり、増加してきています。2022年4月の発行件数は289件でしたが、2024年1月には、475件にまで伸びてきています。また、内科の訪問診療枠の増加、その他の診療科の増大により、短期間、集中したケアが必要となるケースも増加し、特別指示書の発行件数も前年対比で大きく増えてきています。感染症の増加などで、ばらつきがありますが、2024年1月で、116件まで増えてきています。

訪問件数



## V. おわりに

今後、さらに高齢化が進むことで訪問診療・往診のニーズは高まる一方です。訪問診療を導入することで、ご家族や、介護者の負担が軽減するとともに、患者様にとって医療がより身近になります。一方、グループ内の訪問・通所サービスについても、青藍会グループの顧客確保の1つとして、今後も拡大を行っていきたいと考えています。泌尿器科・精神科の医師の確保も行い、総合病院が患家へ何う形を実現していきたいと思ひます。

# 医療的依存度の高いご利用者様の望みを多職種連携で叶えた事例



ハートハウス新山口あんしんホーム・グループホーム 事業所長

## I. はじめに

ハートハウス新山口のホスピス住宅は、ガン末期や難病指定疾患などの専門的な緩和ケアを必要とするご利用者様が集まって住む住宅です。訪問看護師が24時間365日常駐しており、鎮痛剤や医療用麻薬の使用、在宅人工呼吸器の管理などを行っています。また病院などの医療機関では面会が制限されるなど家族と一緒に過ごせる時間が少ないのに比べて、ホスピス住宅は自由度が高く、ご家族の宿泊やケアを積極的に一緒に行うことも可能です。

## II. 取り組んだ課題

ホスピス住宅は施設ではなく、あくまでも自宅です。「最期までその人らしく過ごせること」をスローガンに、病院のような安心感を得ながら、ご家族との大切な時間を過ごせる場所であることを目指しています。入居されている方々の希望を叶える為に職種を超えて何か出来る事はないのかを検討し、実際に在宅ならではの関わりが出来、ご利用者様・ご家族の望みを叶えることが出来たケースを報告します。

## III. 具体的な取り組み

【A様61歳女性、多系統萎縮症・慢性呼吸不全・胃瘻造設術後・気管切開術後、酸素0.5L継続中・要介護5】

入居当初はまだ発語もあり、「息子の結婚式に行きたい」とはっきり話されていました。しかしその後症状が徐々に進行し、気管切開・酸素投与開始となりました。コロナ禍で結婚式が延期となったことから式場での結婚式の参加は難しいと判断しました。一人の親として子供の結婚式に参列したいというご利用者様の気持ちを叶えることはできないのかを検討しました。

- ①ご利用者様・ご家族の思いを叶える為に何かできないかを管理者・医師・ケアマネジャー・訪問看護・介護職とカンファレンスを実施し、現在のご利用者様の状態・注意事項などを情報共有しました。
- ②ご利用者様・ご家族だけではなく、ハートハウス新山口に入居されている全利用者参加型のできるものを考案し、参加者リストの作成・参加者の情報共有をしました。
- ③息子さんに相談し、ハートハウス新山口内でのサプライズ手作り結婚式を提案し、「是非お願いします」と了承を得ました。

ご利用者様・ご主人には全て内緒で準備を進め、参列者はハートハウス新山口入居者・グループホーム利用者・職員としました。事前準備として、管理者は息子さんに当日のスケジュール等の連絡、ドレスの準備をし、はあと農園にオーダーウェディングケーキを注文しました。ケアマネジャーはブーケの発注、ご主人の当日のハートハウス新山口への誘導をしてもらいました。



式当日は、ご主人がご利用者様の居室に入ってから全職員で式場の準備を行い、女性職員で花嫁へのウェディングドレスの着付け実施、式場の準備完了後、全職員で結婚式に参加する入居者の誘導を実施しました。訪問看護はご利用者様の当日の体調管理・式直前の吸引実施・式中の体調確認を実施しました。誓いの言葉やファーストバイト、ご両親に向けた感謝の手紙はとても感動的でした。最後はご両親へ花束贈呈。家族写真もみんな笑顔で幸せいっぱいそうでした。



#### IV. 活動の成果と評価

ご利用者様・ご主人には内緒での計画だったためとても驚かれて涙を流して喜んで頂けました。息子さんも母親の結婚式参加は難しいと諦めていた為、提案した際とても喜んでおられ、息子さんの希望も叶えることができました。今回の症例では、職種の枠を超えてご利用者様の為に何が出来るかを多職種協働で意見を出し合い、息子の結婚式に参加したいという望みを叶えることが出来ました。今でもご主人が「お母さん、結婚式に参加出来て本当によかったね」と話されると笑顔で頷き喜ばれています。



また、結婚式に参加したグループホームのご利用者様が「最高の結婚式」・「結婚式でとても楽しかった。幸せ・・・」と絵日記に残しています。今でも結婚式に参加したことを話し、認知症のご利用者様にとっても良い影響を与えることができたのではないかと思います。

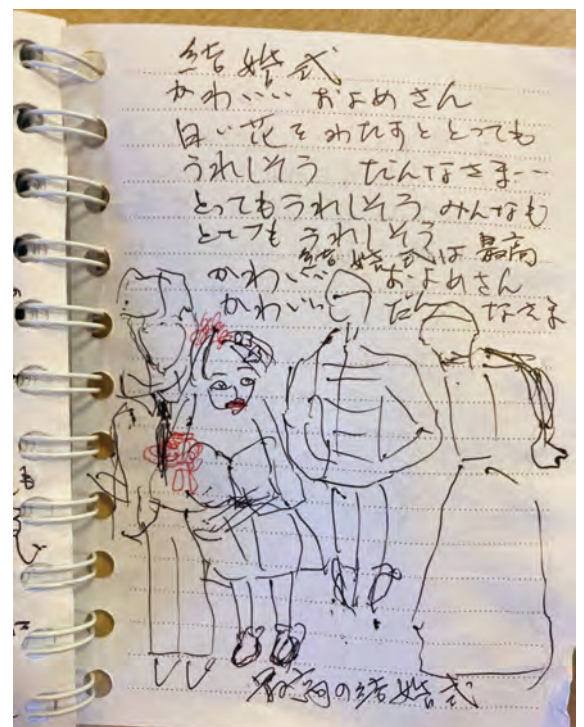
今回の取り組みとして医療的依存度の高いご利用者様の「息子の結婚式に参加したい」という思いを多職種協働で叶えることが出来ました。ご利用者様・ご家族のみならず、参加した他のご利用者様にも心に残る結婚式を挙行出来、良い影響を与えることが出来ました。

#### V. おわりに

これまでにホスピス住宅に入居されていたご利用者様の中には、在宅人工呼吸器装着の方で、以前ピアノ先生をされていた為、「ピアノが弾きたい」と要望されオーバートーブルにキーボードを置き職員に演奏をして下さったご利用者様や、肝臓癌末期のご利用者様で元々飲酒が好きで、「ビールを飲みたい」と言われご家族の同意のもと最期の時まで大好きなビールを飲まれていたご利用者様もおられました。

ご利用者様・ご家族は病気を機に自分のしたいこと・望みを我慢していることが多いと感じます。死が近づいてきたとしても、最期までこんな風に生きたいという本人の意思が尊重され、周囲がそれを支援すればご利用者様の尊厳を守ることが出来ると思います。痛みや苦しみを取り、最期に自分はどう生きたいのかを聞き出し、なるべくその希望を実現してさしあげたいと思います。その為には、もっとご利用者様に寄り添える時間が必要だと感じます。これは今後の課題です。

今後でもご利用者様の為に何が出来るかを考え柔軟な発想で支援していきたいと思ひます。



# 地域子育て支援と 入園希望者数拡大



子どもチームリーダー  
ハートホーム新山口 事務長

## I. はじめに

青藍会グループの保育園のうち、山口3園で取り組んだ「子育て支援と入園希望者数の拡大について」、山口市内在住の家庭内子育て世帯との関係構築についての詳細と入園希望者数の拡大と定員での保育園運営について発表します。

## II. 取り組んだ課題

地域の家庭内子育て世帯と在園親子双方への子育て支援が、今後の保育園運営に重要となります。そのためには安定した経営を行うことは必須となります。地域での子育て支援を行いながら、はあと保育園に魅力を感じていただくにはどうしたらよいかを課題として取り組みました。

課題に取り組むにあたり、コロナとの共生と地域子育て支援の新たな形の模索と実施について考えました。山口市内において家庭内で育児をする親子はコロナを機に地域交流等が減少していることがあげられます。これは園見学に来られる方々から多く聞かれました。子育て世帯のコミュニティが感染症予防対策の中で減少したということです。また感染への危惧から他者との交流を控える傾向もあり、子育て世帯の交流は減少しました。

## III. 具体的な取り組み

### ①OYA塾

これは親子参加イベントで、はあと保育園吉敷、中央、新山口にて月に1回、主に土曜日に開催しています。内容は季節の様々なイベント、消防署見学、クッキングなど、在園児だけではなく地域の子育て世帯も呼び込み、親子で楽しく参加していただけるものです。園舎等の設備や立地条件、各保育士の特技・スキルなど、各園の特性を活かし「はあと保育園だからできること」を体験していただくようになっています。参加されるみなさんが、子育てを前向きに楽しめるようになる機会を提供するよう努めています。「参加される方々のニーズは何か」について考えることで、保育士としてのスキルアップもあります。地域企業と連携し、親子研修会の実施をしたり、季節ごとに環境豊かな園舎での遊びを展開したり、ベビーマッサージやリトミック等“初体験”を楽しんでいただいたりしました。

OYA塾 (4~12月)	はあと保育園吉敷	はあと保育園中央	はあと保育園新山口
参加総人数 (人)	165/90 +75	181/90 +91	141/90 +51

OYA塾は1回10名の参加を目標に実施しました。活動の中で交流する在園親子から未就園親子に対して園の様子など情報を得る場を提供してきました。表にある通り、各園が工夫を凝らし、多くの方に参加していただくことができました。

### ②はあとこども広場

これは家庭内で子育てを頑張られている方々に交流の場を提供する活動です。はあと保育園中央では毎週木曜、はあと保育園新山口では毎週水曜の10:00~13:00の間のお好きな時間にお越しいただいています。地域交流等が減少している親子が集まり、友だちをつくったり、地域の子育て情報を共有したりとホッと一息つける安心の場を提供しています。過ごしやすく集まりやすい環境を設定することに努め、毎週通ってくださる方、お友だちを誘って来てくださる方、この場で友だちになった方と、自然な形で輪が広がりました。参加者からのリクエストも活用し、一緒に環境を考え作り上げたため、主体的な参加を実現しま

した。始めのうちは保育士が場を取り持っていました。今ではママ同士で遊びや場の共有を展開されています。「市内の保育園の入園状況はどうか?」「市役所の説明はこうだったよ」など積極的な情報交換も行われ、園としても貴重な情報源となっています。

はあとこども広場は、毎週5名の参加を目標に実施しました。はあとこども広場、園見学と参加された方からお子さまの発達に関する育児相談を受け、はあと相談支援事業所山口を紹介し、はあとm+M2（児童発達支援）新山口の利用に繋がったケースもあります。

はあとこども広場 (4~12月)	はあと保育園中央	はあと保育園新山口
参加総数 (人)	84/175 △91	269/190 +79

表に示す通り、はあと保育園中央と新山口では結果に差異が生じています。中央の実施内容については引き続き分析と改善を行い、目標数を達成し、実施する目的に対する成果を出します。

これまでお話ししてきた子育て支援活動を大きく支えたものが地域子育て世帯を対象とした広報活動です。地域子育て支援の中で、いかにはあと保育園の強みをPRし、保育園を知っていただくことが重要になります。子育て支援活動自体を、はあと保育園のLIVEでの広報活動と考えています。また、今年度より再開した子育て応援Newsの配布、掲示によりPRを強化しています。地域子育て世帯に向け、はあと保育園の情報を発信し、各イベント案内、一時保育、休日保育、こども相談室など、子育て世帯の情報誌として発信に注力しました。保育園見学等、入園の対象世帯に対するPRをし、定員に空きがあった園は特性、専門性を具体的にPRするためのチラシも作成し、行動しています。

子育て応援NewsはSNS、デジタルサイネージの活用に加え、毎月、市内73か所への配布、掲示を行っています。現場保育士の考察から、子育て世帯の動線を予測して実施し、はあと保育園で働く保育士が子育て支援活動を“自分事”として捉え、毎月連携し行動しています。その結果吉敷は12月、中央は9月に定員となりました。

2023年度、はあと保育園吉敷については、4月、27/45名 空き18名からのスタートでした。この数字を作った要因について考えた際、子育て世帯から「3歳になったら園を変わらなくてはいけないし」「園を変える時に不安になりそう」という声がありました。この要因を弱みとせず、PR強化の軸として0~2歳児に特化した保育園であることを全面的に押し出すこととしました。ベビーマッサージや給食試食会など「こんなことが体験してみたい！」等、0~2歳児の子育て世帯のニーズに合わせた内容の中で、保育士の動きや寄り添い、関わりを直接体験していただきました。まさにLIVEです。イベント実施と園の特性PRの両立に注力しました。これは園長を中心に保育士、調理員、すべてのスタッフで取り組みました。

また、在園児親子の保育園利用の満足度向上のために園舎と園庭の改築、修繕も実施しました。

#### IV. 活動の評価

まず保育の専門性を軸に“はあと保育園だからできる”を考え、子育て世帯のニーズに合わせて子育て支援の内容を構築し、リアルな保育体験会を継続的に実施していきます。イベントの実施を“保育のLIVE”として提供、発信していくことで子育て世帯のサポーターであり続けます。

2024年1月時点で成城を含む全園定員で運営しています。イベントへの参加数と在園園児数の数は地域から必要とされている評価として考え、子どもチーム全体でブラッシュアップを継続します。

#### V. おわりに

山口市内においてもエリアによって生活状況、条件が異なります。各エリアの子育て世帯がどのようなニーズを抱えているのか、常に情報更新し応えていく必要があります。地域の中で各所を繋ぐハブ的な役割を担っていき、“地域と繋がる機会の設定”を確立していきます。

はあと保育園は“すべての子育て家庭を支援の対象”とする保育の多機能化を進めていき、在園保護者と地域子育て世帯のニーズに応える“子育て支援”の充実化を図ります。

子育てに困ったとき、ぱっとハートのマークを思い出してもらえる保育園になるために、チャレンジし続けます。

# 感染症の対策について ～BCPの活用とこれから～



介護施設チームリーダー  
ハートホーム宮野 事務長

## I. はじめに

BCP (=Business Continuity Plan : 事業継続計画・業務継続計画) とは、企業が自然災害や感染症、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に、事業の損害を最小限にとどめつつ中核となる事業の継続や早期復旧を可能にするために手段などを取り決めておく計画のことです。介護事業所では2024年3月31日までにBCPを完成させたいと、今行っている委員会の開催、指針の整備、研修の実施、シミュレーションによる訓練の実施をしなければなりません。

## II. 取り組んだ課題

2022年7月にハートホーム宮野で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生に未完成だったBCPを、実際に感染対策を行いながら気づいた点を踏まえ、完成させる。

## III. 具体的な取り組み

### 2022年7月新型コロナウイルス感染症発生

#### 1～2日目

陽性者1名

発熱者に対して新型コロナウイルス抗原検査を実施し、結果は陽性でした。取り組んだ内容は行動歴、感染経路の確認、委員会の実施、隔離対応、入居者の体温2検、PPE (Personal Protective Equipment : 個人防護具) の着用確認、物品の確認、関係各所への連絡です。各所の連絡先や緊急連絡網などもBCPに含まれています。

#### 3日目

陽性者13名

ゾーニングを実施。通路の整備、休憩場所、更衣場所、エレベータ、階段の使い分け、陽性者の見える化、ゴミ出しのタイミング、食事の提供方法、換気の徹底などについて、感染対策委員会の中で細かく話し合いました。ゾーニングについては随時LINE、ホワイトボードへの書き出しなどに行い、どこがどのゾーンかを見える形にしました陽性者の増加に伴い3階利用者のデイサービスをストップし全員居室対応を実施。食事は全て使い捨て弁当箱として対応しました。

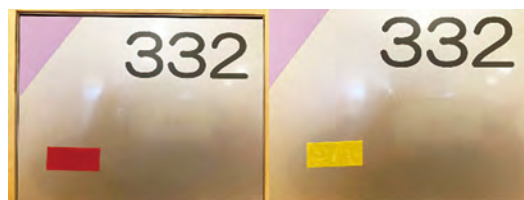
2階、3階はそれぞれ対応職員を固定、3階についてはユニット間も固定して支援しました。業務の見える化、統一化としては、基本的な決定事項やルールはホワイトボードに書き出して、全職員それを見てから業務に入るようにしました。また業務連絡ツールはコロナ専用のグループを作成し、LINEに統一しました。業務の流れについては各ご利用者様ごとの支援内容とユニットで行う内容を記載した指示書を作りヘルプの職員に渡すことで、滞りなく業務を継続することができました。



レッドゾーン



陽性者の居室を赤で塗りつぶし、ホワイトボードに貼り出し



陽性者は赤、発熱者は黄色で見える化

## 4日目

陽性者16名

取り組み自体は変わらず継続することが多くなりましたが、このあたりから各場所の消毒を積極的に行いました。アルコールの強い消毒液をペーパータオルにしみこませて、手すり、机など手が空いている職員は拭いて回るようにしました。また清掃するにあたって、フローリングワイパーなどの使い捨てができる掃除用具など追加購入し、環境整備を徹底していきました。4日目あたりからご利用者の食事量や水分量の減少がみられたため、厨房キッチン・はあとに相談し、カルピスや栄養補助飲料などを提供してもらい、栄養は最低限摂取できるようにしました。

## 5日目

陽性者計24名（利用者19名、職員5名）

ここで職員が罹患し、全館通所サービスの利用をストップしました。定期巡回、脳活性リハビリ、グループホーム、訪問看護全事業所で業務を継続できる形にしましたが、ゾーニングで各階やユニットの行き来の制限をしているため人員不足になり、本部に応援依頼をしました。それだけでも非常に助かったのですが、毎年法人で初任者研修や実務者研修を実施して本部職員の資格取得者も年々増加しており、有事の際に基礎知識があることで、ご利用者への対応等任せることができたことは非常に助かりました。職員も疲弊してきていましたが、明るくヘルプに来てくれたことで、負けずに立ち向かうことができました。

## 7～8日目

陽性者計26名（利用者21名、職員5名）

宮野、本部のガウンのストックがなくなり、各支店にガウンを補填してもらいました。それでも通常のガウンはストックが少なくなり、まるで宇宙服のような全身を覆うガウンで支援をなんとか継続しました。在庫管理や本部との連携、1日どのくらい使用するのか、どのくらい増えたらどのくらいになるのかなど備品のストック量もBCPには必要です。使用枚数を減らすのではなく、正確に把握することでいつまでにどのくらい必要かを明確に出すことが重要です。

## 8日目

業務の流れが決まり、ルーティンで行えるようになり、細かい改善点についてはその都度LINEとホワイトボードでチェックしました。14日目からは職員も無事コロナから復帰し、自支店で回せるようになり、22日目には徐々にユニットごとに陰性確認ができた居室から消毒作業を行い、通所も徐々に再開していきました。

## 30日目

陽性者0名

陰性確認72時間後に居室、廊下などレッドゾーンの消毒をはあとサポート山口にしてもらい、ようやく全て隔離解除。関係各所への連絡を実施し、通常営業に戻ることができました。

## IV. 活動の成果と評価

今回のクラスターについてはBCPも未完成で、その都度課題に直面し対応する形となりました。BCPを完成させ、何よりも初動が重要であると痛感しました。また多くの職員が対応する現場においては業務内容、記載内容、報告内容を単純化し、見るものや、対応方法の統一化をし、見える形で表示することが重要であることが分かりました。最後に介護現場はもちろんのこと、その他の事業所でも資格を取得することで柔軟な対応ができることが分かったため、資格取得に前向きに取り組んでもらいたいと感じました。

## V. おわりに

感染力のある感染症は1人目が出た時点で、広がっていることを想定してゾーニングや隔離対応などすることが重要です。職員が媒介になっていることも多いためシミュレーションをもとにした訓練などで基礎知識や感染症に対する対応を身に着ける必要があることを感じました。活動の評価とこの内容を含めてBCPを作成し、常に更新していくことで事業所の感染症への対応力は上がっていくのではないかと考えます。

# はあと日本語学校卒業式

3/16(土)に、はあと日本語学校の卒業式を行いました。コロナによる待機期間を経て2022年4月に入学したネパールの私費留学生64名とミャンマーからの青藍会介護奨学生7名が卒業しました。卒業後は、全員日本にて進学・就職が決まっております。各々の道に向かって羽ばたいていきます。(進学先：ビジネス、IT、自動車整備、介護等の大学、専門学校 就職先：宿泊、小売、飲食関係)



山口県山口市

東京都世田谷区



## 青藍会在宅医療支援センター

ハートコール セイランカイ  
**0120(2)81056** 青藍会  
 (受付) 8:30~18:00 (日・祝・GW・お盆・年末年始などの所定の定休日を除く)

